

猫と私と幸せと

岐阜市立岐阜中央中学校 3年
名越彩織（なごし さおり）

みなさんはペットを飼ったことがありますか？賢い犬、気まぐれな猫、可愛い小鳥。どんな動物にもよさはありますが、私は断然猫派です。

私が物心ついた頃から、猫は身近な存在でした。14年間で6匹の猫を飼いましたが、その子たちは皆、公園で生まれたり、捨てられたりした子たちでした。私はペットショップで猫を見ることは好きです。だけど、「購入」するには、何故か少し違和感がありました。ペットショップで猫を買う。当たり前のことなのに、受け入れられないのです。

その理由に気付かせてくれたのは、ある人の何気ない一言でした。家族旅行で訪れた、奈良県にある猫グッズ専門店。その店長さんが、こんなことを言いました。「猫ってさ、ゴロゴロの音を鳴らしながら膝で安心しきって寝たり、甘えて足にすり寄ってきたりするよね。私、こんなにストレートな愛情表現、猫からしか受けたことない。」

その言葉は、私の胸に「すとん」と音を立てて落ちました。それと同時に、ずっとずっと抱いてきた違和感の正体のはっきりと分かりました。私がこだわっていたのは「愛情」。生まれた時から知っていたのに、当たり前すぎてすっかり忘れていた大切な感情でした。

自分が何故、猫を購入することに違和感を抱いていたのか。「命」や「愛情」を「モノ」として扱い、お金でやり取りすることが、許せなかったからでした。

私は猫が大好きです。猫を可愛がる時、心が満たされていく実感があります。私にとって猫は、大切な家族なのです。

家族と過ごす時間や友達との他愛ない会話。その中にいると、私が大切にしているのと同じくらい、大切にされているという安心感に包まれます。「当たり前」に愛される。そんなことが、私には「幸せ」だと思えるのです。

しかし、世の中には、そんな「当たり前」の愛情を知らない動物がたくさんいます。私にとっては撫でずにはいられない毛むくじゃらの頭を、何のためらいもなく叩く人がいます。思わず抱きしめたくなくなるような柔らかい体を笑いながら蹴飛ばす人がいます。私にとっては「家族」でも、その人たちにとっては「モノ」でしかないのでしょう。動物虐待の件数は、現在も年々増え続けています。

どうしてそんなことができるんだろう。心は痛まないのか。可哀想とは思わないのか。痛みは感じないのか。私には、自分勝手な理由で動物を傷つける人の気持ちが、理解できません。何か事情があったのかもしれない。だけど、どんな事情があったって、傷つけていい命なんて、絶対にあるはずがない。

人間の世界だって、同じです。自分勝手な理由や偏見で、他の誰かを傷つける。自分との違いを怖がって、その違いを認めない。一人ぼっちになりたくなくて、他の誰かを仲間はずれにする。そうやって傷つけたり、傷つけられたりしながら生きることに疲れてしまう。私が大切に思う「愛情」が、「当たり前」でない世界があるのです。

私は世界中の猫や動物たちが、当たり前」に安心してひなたぼっこができる、そんな世界を望みます。だけどそのためには、私たち人間が「当たり前」に「愛情」を受けられる世界が必要です。

世界は人間を中心に回っているわけではない。自分を中心に回っているわけではない。どんな小さな存在だって、どんな立場の存在だって、「当たり前」に「愛情」を受けられる権利がある。私はそんな「当たり前」の愛情を誰にも分け隔てなく注げる人でありたいです。

今日も私の足元には、安心しきって眠る猫がいます。その幸せそうな顔を、世界中の人たちに見せたら、案外世界はよくなると、そう思うってしまうのです。